



国鉄富山駅 駅長

柴 野

勇

構内巡回から自室に戻る
と机の上に原稿用紙とその
上に「道」と言う題名でお
願いしますと書いたメモが
置かれてあった。一瞬一寸
驚いた。今から思うと苦笑
がわく。その理由は道とは
二十余年來つれそっている
妻の名前である。妻と二人
で歩いた年月、一編の随筆
になる程色々な事があつた。
初めて会った時から婚約時
代、戦後の新婚の苦しかつ
た生活、育児時代、そして
転勤のはげしかった時代、
話の種がつきない。しかし
あすなる編集子の意図はそ
うではない様である。さて
道についてあるが大変に
むづかしい問題である。有
形の道、無形の道、私は中
学生時代から剣の道を学ん
で来たが、何時も何かを求
めずもつかまれないで今日
まで来たが、五十余才にな
り唯薄ぼんやりと理解出来
たのは、すべての道は同じ
であるということである。
先人達が苦悩と修業と試練
に耐え求めた道の事はさて
置き私は一生の仕事として
入った国鉄の道について述
べたい。この十月には北陸
線全線即ち米原から直江津
間が完全に複線電化となり
越中と越後の距離をグンと

縮め物心両面の交流も盛ん
になる事であろう。旅行の
快適さ、スピード化は昔年
の比ではない。ツートンカ
ラーの特急が時速一二〇K
で南北に走る姿は一幅の絵
であり、はなやかなもので
ある。その華やかさの陰に
は日夜酷暑厳寒もいとわず
雨の日も風の日も黙々と線
路の補修や保全に列車の運
行をささえている人々のあ
る事は忘れられている。こ
の人達の歩いている尊い道
のある事はあまり気づかれ
ないのである。平凡で単調
な道であるが自分で満足し
天職としての誇りを持って
歩いている道である。鉄道
には終着駅があるが道には
限りがない。私は平凡な人
の道を歩き続けたい。限り
ない道を。

(題字は青柳志朗先生)



第二回北信越ブロック協議会 国鉄寺風景

四月二十六日、遠く佐渡
や長野を始め、ブロック内
の各地から参加した会員達
は、一応、登録の為、佐藤
美術館へ集合した。午後三
時、一行はバスに乗り、呈
茶を担当された亀井社中の

第二回北信越ブロック協議会を担当

長 江 隆 二

(五) 総本部の青年部に対する
意向 (六) 総本部に対する要
望 (七) ブロック協議会のあ

私の道場

滝 本 恵 子

沈みかけた真夏の太陽を
うらめしうに見上げなが
ら、それでも汗を拭き拭き
足を運ぶ。ほとんど無心で
ある。

こんもりとした木立が繁
り、早朝の金地院を思わせ
る余川家の門に足を踏み入
れたとたん、不思議に緊張
感が全身を包む。

私が、お茶を習い始めた
きっかけはいたって平凡だ
が、今尚続いている理由の
一つ、お茶には、ずい分合
理的な生活の知恵的分野が
あり、考え方によっては日
常生活の縮図のような面を
見したからである。

余川家の手入れのゆきと
どいた庭や茶室は、私に整
理の知恵を教え、何けなく
奥ゆかしくいつもいけてあ
る茶花は、人には小さな生
命のなぐさめと、うるおい
の必要を教え、何事におい
ても、挨拶をし合う茶の点
前は、何よりも、人の和が大
切であることを教えてくれ
る。まさに静かな心の道場

り方について、以上それぞ
れ現状の報告や、今後の進
め方について熱心な検討が
行なわれた。会議は午前中
で完了し、昼食後、国鉄寺
管長の講話があり、その後
高岡支部の設営によるお茶

席で一同薄茶をいただき、午後
四時頃散会した。

である。
そして、もう一つの理由
は楽しい稽古にあります。
先生のたくみな編成によ
って、幾つかのグループに
わかれて稽古している。
初心者、早く次の段階
のグループに入りたいと努
力を重ね、そして又、その
上のグループへと目標を高
める。
アポロが月に行き、うさ
ぎから科学の手へとイメー
ジは変わっても茶室から見上
げる月は相も変わらず美し
く自然である。
いつまでもこの茶室から
月を見上げていたい。もし
て今日も、厳しく楽しい稽
古が続いています。



美しい

牛嶋屋

富山市中央通 1-6
TEL 21 3610

特選服飾・雑貨

大間知

今を去る六百年の昔、永の御代、紀州根来寺の僧侶が当地に來りて朱塗りの方法を教えたのが輪島漆の創始と伝えられ、寛文年間に入りて、地の粉の発見によりこれを下地に應用して以來、輪島漆器の堅牢無此なる特色は、あまねく全国に好評を得て年々改良を加え今日に到りては到底他産漆器や化学的製品の絶対追従を許さざる名声を誇っている次第であります。

化学万能の今日といえども幾多化学者の研究によるも人工的に製せられないと言われる(地の粉)は当地のみの天与の恩恵にして輪島市東南小峰山一帯の山腹より採掘する黄色粘土を蒸焼にして更に粉末にしたものに輪島漆器の下塗原料漆と調合する専売特許品であります。

輪島漆の沿革

慶塚修兵衛

二辺地と塗り重ね、三辺地が終ると得意の檜皮引きをする。この地を乾かし、平らに研いだあと、めすりといって通称錆漆といって砥の粉を混ぜた漆を塗って地の肌を整える。めすりが終って地研ぎをす

最初の中塗りが終ると、肌を研ぎ小中塗りといって二度目の中塗りし、また研ぎ上げて空拭きをして、上塗りがほどこされる。

塗って乾かし研いで塗る輪島塗はこうして普通品で、七十五回特高級品と技巧を要するものにありては、最近半ケ年以上一年余の歳月を要して完成され、これが全国に好評を博す特長であり、輪島塗りの本質であります。



慶塚漆器工房代表

第四回北信越ブロック協議会、五月二十九日、三十日の両日にわたり、福井支部青年部担当で行われた。当支部からは、長江幹事長栗林常任幹事、滝野総務委員長が出席した。

今協議会のテーマは、「今後の青年部のあり方」。

本部より青年部担当、千坂秀学先生を迎え、各支部代表者約四十名が参加、終始熱心かつ活発に討議された。

第一日は、福井の足羽公園麓の丹巖洞(百三十年前福井藩医山本瑞庵の遊見所として造られたもの)で茶席がもたれた。

質素な昔のままの土蔵造りの茶庵でいただく一盃のお茶に、参加者一同静寂のひと時を過した。

第二日目、協議会はまず各支部から現状報告、広報活動報告があり、特に富山支部の多さいな行事ならびに活発な広報活動は、他支部から注目を浴びていた。つづいて「今後の青年部のあり方」について熱心に討議がかわされたが、要は、青年部綱領に唱われたとおりであり、具体的意識は、各支部の実情にあった日常

第四回北信越ブロック協議会

活動の中から、地域社会への奉仕、茶道精神の実践に努力することにより、我々自らが求めるべきものであるとの意見に一致、次の決議文を採択した。

決議文

我々は、茶道の実践を通して、自らの人格を高め、地域社会への奉仕すること、で裏千家茶道精神の伝播に努めます。以上の目標を達成する為、次の事項の実践を決議します。

- 一、地域社会に対する指導能力の養成
 - 一、友愛の精神により、連帯感の高揚
 - 一、奉仕の精神の徹底
 - 一、人間関係の円滑化
 - 一、開発精神の徹底
- 次期開催地は長野支部と決定し、午後から一乗谷の朝倉城遺跡を探訪し、本協議会を有意義に終了した。

抹茶・茶の湯道具

栗林園

富山市千石町通り 電話(21)-5147番

お茶席和菓子

茶要堂

とやま中央通り

チャリティ茶会

さる五月二十一日、護国神社において日本青年会議所富山ブロック協議会主催、遠州会富山支部、表千家立山会、淡交会富山支部、青年部の三流派協賛のチャリティ茶会が催された。

この日は朝からあいにくの小雨模様で野点が出来ず、茶席は高田邸、社務所、拝殿を借りて薄茶席三席が設けられました。幸い午後から青空もみえはじめ、その短い時間に一席でも野点をと部員一同拝殿から道具運び、雨上りのすがすがしい若葉のなかでお茶をさしあげることが出来、ほっと一息ついたとたん、また小雨がふりはじめ、拝殿に道具運び入れるという大変忙しい茶会でした。朝からの雨にもかかわらず、受付終了三時三十分までに来喫者は一〇〇〇余名にもおよび茶会は盛會裡のうちに終了しました。尚この会の総収益二五五、七四〇円は善意銀行へ寄付されました。



第二回 茶杓削り講習会

昨年の講習会が大変好評であったことから再度、奈良の高山より谷村、三原の両氏を講師に第二回茶杓削り講習会が四月八、九日二日間にあつて開かれた。参加人員は前回と同じく、百五十名。会場では茶杓削り講習に先立って、湯杓削りの実演が行われた。

観賞能と一皿の集い

六月二十五日、富山県宝生会主催の春季能楽大会が午前九時から富山県民会館大ホールでひらかれた。午前九時から素謡「賀茂」「羽衣」等が午後から巴御前の木曾義仲に対する執念を描いた能「巴」、そして宝生流十七世宗家宝生九郎氏の「西行様」そして最後に「葵上」と能三番が演じられた。観賞した当青年部員は張りつめた鼓の響きや、美しい能装束、演者の舞にとすっかり古典芸術に魅せられた様子でした。なお演能の間にロビーで行われた呈茶は大変好評で再服の所望にうれしい悲鳴をあげていました。



第五回 北信越ブロック協議会 長野にて開催

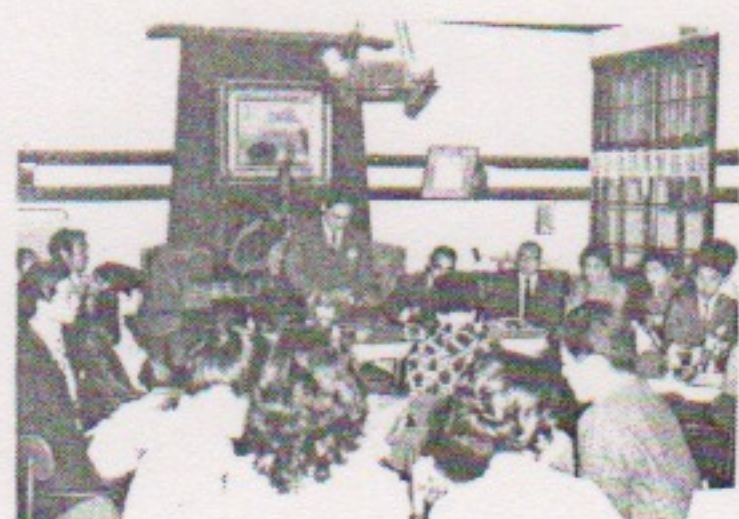
風薫る五月も終りに近い二十七、二十八日の二日間、長野県の善光寺、オヨビ、野尻湖畔で第五回北信越ブロック協議会が開催された。本協議会は昨年十二月、金沢において正式に組織化された（あすなろ八号に掲載）ことは周知の通りであるが今回はその組織化後初めて催されたものである。

協議会は、第一日目、善光寺横の大観進において長野支部担当による呈茶があり引き続き、その場で役員、及び評議員による評議会に入った。

一ノ瀬会長の議長にて、各支部の活動報告や今後の方針等活発なる意見が交わされた。評議会終了後は、会場を野尻湖ホテルに移し家元総本部からお迎えした干坂秀学先生の講演を拝聴した。講演後、夕食を兼ねて懇親会がもたれた。

翌二日目は三分科会にわかれ、それぞれ次のテーマによるデスカッションが行なわれた。

- 第一分科会 道、学、実の実践的活動とは
- 第二分科会 青年部における男子会員の獲得
- 第三分科会





会館において、一回二十五名ずつを対象に懐石料理講習会が実施された。本来ならば、もつと小人数で行なうべきところ、今回は一応、各回二十五名ずつというこ

茶懐石講習会

今期の当青年部行事計画の一つの柱でもある「小寄せの茶会」の一環として、

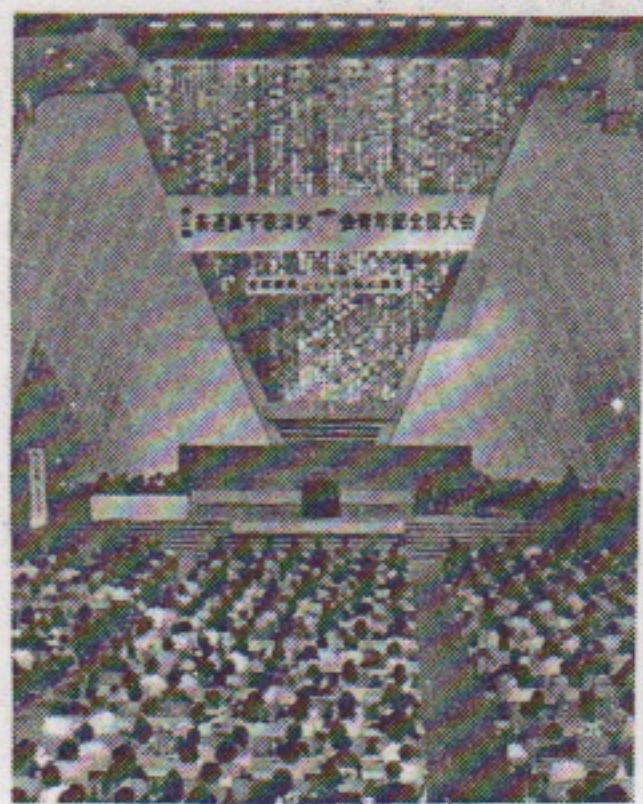


第一回目は長越宗江先生、第二回目は木本宗清先生のご指導のもとで、一席に亭主が三人付き添って行われた。膳の受け方、飯碗、汁碗の取り方、さらには盃のすめ方、受け方など、一動作ずつ、心の行き届いた指導を受け、参加者一同有意義な講習会であった。なお、企画委員会の方では、今後は、さらに人数を少人数化し、お互いにお客様役、亭主役交代で、小寄せの茶会を定例化していく方針である。

一皿からピースフルネスを

— 第3回全国青年部大会 —

第三回青年部全国大会は、真夏の太陽がキラキラ照りつける七月二十一日から三日間、京都宝ヶ池にある国際会議場



において全国から二千二百〇名の若人が集まって開催された。一日目は、各支部代表者による第一回ブロック協議会と第十二回代表者会議が開かれ、御家元の指導方針に基づく成果の発表と今後の活動について活発に意見交換され、ひき続き御家元を囲んでの楽しい懇親パーティ、その間にも全国の青年部より寄せられた茶道具

茶杓削り

例年好評を呼んでいる茶杓削り講習会が、去る六月十六・十七日の両日にわたり、富山市高志会館において行なわれ、約一五〇名が参加した。

本講習会は今年で三回目、講師には今回も茶杓村で名高い奈良県の生駒町高山から、谷村丹後、三原敏康の両先生を迎えて行なわ

まず、茶杓の削り方の実演のあと、それぞれ異千家歴代宗匠の好みの茶杓を参考にしながら、各自個性あふれる茶杓を削った。日ごろ何の気なしに使っている茶杓も、いざ自分が実際に削るとなると思うようにいかず、削りすぎて細くなり過ぎた人、また自作の茶杓を満足そうにながめている人など、手造りの難しさと楽しさを満喫しながら真剣に小刀を動かす、好評のうちに終了した。



第六回青年部北信越ブロック協議会は、四月二十一日および二十二日の両日にわたり、魚津支部青年部の担当で宇奈月において開催された。今回は、総本部から沢木

魚津にて開催

第六回北信越ブロック協議会

のチャリティ即売、福引が賑やかに行なわれた。二日目は、御家元ご家族並びに多数の来賓を迎え、厳粛かつ盛大に式典が挙行され、総会に続いて各ブロック代表による「青年部員としての私の提言」と題した青年茶道人としてのあり方についての意見発表、黛敏郎氏の講演など内容豊富

であった。この大会を通じて御家元は、「一皿からピースフルネスを」と提言され、部員一同一皿を通して失なわれてゆく日本の心を守り、良識ある近代人としての人間形成につとめ、世界平和に寄与することを決議して有意義な大会を終了した。

敬常任理事を、また魚津支部の諸先生を来賓として迎え、ブロック内八支部から百余名の会員が参加し盛大に開催された。前日は、評議役員によるブロック協議会規約の改定審議の後、協議会に移り、国泰寺管長、稲葉心田師の記念講演を拝聴し、それぞれ参加者が三分科会に分かれてグループ討議が行われた。

○第一分科会

「地域社会における淡交会青年部の役割」

○第二分科会

「小さな茶会」

○第三分科会

「地域工芸の育成」各分科ともそれぞれ熱心かつ活発に討議が交わされ、翌日の全体会議で集約され、本大会は有意義に終了した。

茶懷石講習会

さる六月一日、婦人会館において、茶懷石のいただき方の講習会が開かれまし
た。当日は、午前の席十六名、午後の席十八名が参加
して、従来よりさらに少人数化を図った講習会となっ
た。

講師には、宮田宗芳先生と、堀辺宗美先生のご指導のもとに、一席に亭主が三人（青年部幹事が当る）づ
つ付き添い、待合へ、半東
がお湯を運びだす所から始
まり、迎えつけから席入り
後、懷石のいただき方へ
と順序に従い行なわれた。
膳の受け方、飯碗、汁碗
の取り方、引杯や盃のすす
め方、受け方等、宮田先生
は、茶席内を中心に、堀辺
先生は、水屋を中心に一動



作づつ、心の行き届いたご指導に、受講者一同感謝の念大きく、次の様に語って
いた。「私は、初めてです
が、器物の扱い方、献立に
も一つ一つ約束事があるこ
とを認識しました。」
「なんどかお茶事を経験
してわかつているつもりで
いましたが、むつかしいで
すね、今日は新しい事をた
くさん勉強させていただき
ました。」
「講習会はずづけてはし
いし、回数をもっと増やし
てほしいですね。」
懷石のあと、薄茶を契し、
緊張した受講生達の気分を
和らげ、大変好評を博しま
した。

第八回 北信越ブロック協議会

— 佐渡に咲く友好の倶茶 —

第八回、北信越ブロック協議会は、五
月二十四日、二十五日の両日、新潟県佐
渡郡真野町、佐渡ニューホテルにおいて
開催された。
総本部から関根課長、塩見全国委員長
が出席し、地元から今井佐渡支部長を始



め多数の先生方を来賓にお
迎えして、ブロック内八支
部より代表者九十四名が参
加、盛大に施行された。

第一日は、佐渡支部青
年部による呈茶を受け、そ
のあと、委員会、佐渡支部
野又前青年部々長の三回忌
回向倶茶があり黙禱を捧げ
た。続いて協議会、分科会、
懇親会、部長・副部長・幹
事長会議が規約の改正やッ
ニアール会等の議題を中心
に夜遅くまで討議された。

第二日は、早朝六時か
ら全体会議に入り、分科会

のまとめを行ない、つづ
て青年の参加者による
発表が行なわれた。
分科会では、当支部は
長野支部と、青年部の運
と将来の実践について、
情報交換を行ない、熱心
討論がなされ、悩みや喜
びについても語り合い、今
お互いに行事などを通し
接触する機会を作り、共
勉強してゆくよう申し合
せて、終了した。

なお当支部より池田部
ほか八名が参加致しまし
総務委員長 今井秀



なごみ、すっきりしたよう
に思われ、足の感覚がうす
れ、何か気が遠くなってい
きそうな時に、「はい、そ
れまで」の声がかゝり、坐
を解いた解放感、忘れる
事が出来ません。
又、講話の中には、お茶
の心の話や、今日只今を大
切にという（解怠比丘不期明

坐禅会を試みて

七月五日、六日の両日に
わたり、坐禅会が、高岡の
国泰寺で行なわれました。
私にとりまして、初めての
試みの坐禅会は、大変緊張
したなかで、心の糧を得る
ものが多く、有意義なもの
でした。早朝三十分間の坐
禅は、空気の清らかさが身
の中にも入ったのか、心も

いろいろな点で、得るも
が多かったこの坐禅会を
年中行事として、企画し
いきたいと思えますので
皆様方の参加を、期待し
ます。
企画委員長
黒田正雄

委員会も終り、十七時から国泰寺管長稲葉心田老師の講話を拝聴。まず国泰寺は、今から約三百年程前、長野生れである清泉禪師が開山されたという歴史の話から始まって、今日の社会

を告げた、去る五月十五、十六日の二日間の第九回北信越ブロック研修会は、二上山の麓、臨済宗国泰寺派本山国泰寺にて、八支部約八十六名が参加。

第八回迄は、北信越ブロック協議会という名前で、行なわれていました。が、今回から北信越ブロック研修会と、名前が変更されました。協議会と共に、身心共に鍛える座禅が組入れられて研修会の名のおりピリットした雰囲気で行われた。

一日目は、高岡支部青年部とシニア会の方々のによる呈茶をいただき、その後委員会が行なわれました。

第九回 北信越ブロック研修会

——国泰寺に集う——

ノ瀬宗新氏の開会の辞で幕開けとなった。まず明日のスケジュールが報告され、二十二時、消燈に入りました。

二日目の朝、五時に起床後、本堂にて座禅約四十分。身を整え、心を整え、息を整えたつもりでいるのですが、頭の中に色んな思いが浮んでばかりで、四十分の時間が気の遠くなる程の長さを感じられました。

座禅から解放され、次に作務を行ない朝食につきました。食事を作った人、そして作られる迄の裏方のすべての人や物に対して感謝を捧げあい合掌していただきました。

次に、三つの班に別れ、研修会、続いて全体会議が行なわれました。各参加者の自己紹介に初まって、研修議題「一皿からピースフルネスを」そしてさらに「世の中のためにつくそう一皿で」の実践状況を各支部代表者より発表がありました。



各支部行事内容の報告と、今後「一皿から……」の目標に向かってまず、自分の身の近な所から、実践に

十分。身を整え、心を整え、息を整えたつもりでいるのですが、頭の中に色んな思いが浮んでばかりで、四十分の時間が気の遠くなる程の長さを感じられました。

あすなる美術館

その4

白いドレスと短冊の舞

つい先日のことでした。八月七日、高岡市では、七夕祭りでにぎわいをみせていた。えびす通りのあるお店のショトウインドに、この写真のドレスが展示してあった。真白のニット地に、この家庭にでもある、多色の残布を、配色よく、上手にパッチワークされた、楽しいドレスです。ニットと布の組合せも面白く、頭上の七夕の、短冊や五色の色紙が風に乱舞して、真白のドレスに貼りついたかのごとくでした。これは面白いな、誰の作品だろうか、と、尋ね尋ねしたところ、金尾宗愛社中の木村節子さんの作品でした。

た。富山デッサン会に、筆者も在籍中の頃でした。一人の女性が入会して来た。なぜデッサンをするのか、質問しますと、「スタイル画の勉強に、役立てたい」と思っていました。スタイル画を描く場合でも、一応の人体の骨格や、プロポーションを知っていることが必要ですし、それに描こうとする対象を、見つめる目を養いたいと思っていました……と力強い声が返って来た。何事も基礎から、しっかりと積重ねて行こうとする心意気がその頃にも窺うことができました。



木村さんは、学校法人日井学園富山文化服装専門学校の研究員の教授として活躍中です。

俳句二題

虫闇に 月見だんごの 串を投げ 中村文貞

それそれに ささげし手籠や 堀田百合子

一日目は、各地域から列車、貸切バス、自家用車で到着する参加員を待ちながら、十二時から受付と登録が行なわれ、一方では、各支部から持ち寄りの道具を使い、一ノ瀬ブロック長、岩谷ブロック幹事長を亭主に、富山支部奉仕によるブロック席が開かれた。床には鵜雲斎お家元の「呼来山頭一片雲」、茶盤は大樋長左衛門作の富士山、替は白山といかにも立山での地の利を得た道具組み、寒雉のやつれ風炉に藁灰の景色とアフリカ大理石の水指は名残り茶の雰囲気を作り出し、会議までの一時をと、茶席を訪れた人々を魅了



一ノ瀬ブロック長の挨拶

北信越八支部から二百十四名の青年部員が参加して、第十回北信越ブロック研修会が十月二十二日から二日間にわたって、富山県大山町原極楽坂の立山国際ホテルで開催された。この研修会は昭和四十三年の第一回以来、十回目にあたるもので、その記念事業を中心に進められた。

第10回 北信越ブロック研修会

立山に集う 友情の輪

立山国際ホテルで開かる



留学生ガルシャール君

十三時三十分から各支部から五名の委員が参加して委員会が行なわれ、記念行事の進め方、分科会の持ち方が討議されたあと、総本部の関根青年部次長から、現況報告、会員登録の改正などについての説明を受けた。記念式典は十五時から大ホールで、総本部から関根青年部次長、ペルーからの留学生ガルシャール君、また作家、三田富子先生、青年部全国委員長塩見清毅氏、淡交会北信越地区参事田宗安氏、地元の富山支部からは新田支部長を始め、二十一名の親先生をお迎えして行なわれた。式典は岩谷ブロック幹事長の司会で進められ、まず利休居士道歌、「ことば」の唱和、淡交会青年部綱領唱和、歴代宗匠並びに物故会員の霊に



対して黙禱が捧げられた。このあと、来賓と参加青年部の紹介があったあと、一ノ瀬ブロック長が「十年一昔と申しますが、全国に先がけ結成された北信越ブロックがこの組織を通じ、お互いに同志的な連帯感のもとに茶の道に精進できることは、誠に喜ばしい。」との挨拶が行なわれた。つづいて、在田地区参事、新田富山支部長、塩見全国委員長が祝辞を述べたあと、池田部長が担当支部としての歓迎のことばを述べ式典

好評だったホスト役

は終了した。分科会は「北信越ブロック結成十周年にあたり初心にかえり茶道の真の相を見つめよう」のテーマについて、ハグループに分かれ、意見交換が行なわれた。

十八時三十分からは、懇親会が催され、各支部有志による余興が演じられ、越中おわら節や佐渡おけさが会場をねり、和気合々のうちに進められた。このあと全員が屋外広場に移り、夜空に燃えあがるフィヤールを中心にした友情の輪が広がり、夜遅くまで立山の地に歓声がこだましていた。

二日目は朝六時の起床からラジオ体操、記念撮影、富山支部による呈茶が朝食まで行なわれた。このあと三田富子先生の記念講演（第三、四面の講演要旨参照）が行なわれ、先生のユーモアあふれる仕ぐさと言葉の表現力によって参加者はしらずしらずのうちに侘び茶の世界に浸っていた。つづいて、全体会議に移り、第二回青年の船と分科会の報告が行なわれたあと、ガルシャール君の「産業と茶道」についてのお話を聞き、閉会式へと移った。閉会式では利休居士道歌「ことば」の唱和、淡交会青年部綱領の唱和を行なったあと、総本部関根青年部次長からご指導の言葉をいただいた。つづいて淡交会の歌を合唱して、明年、新潟支部で再会することを誓



盛り上りを見せた懇親会



フィヤーストーム

い、二日間にわたった第十回北信越ブロック研修会は天候にもめぐまれ、成功裡のうちに終了した。

第十七回

全国代表者会議

— 京都グランドホテルで開かる —

第十七回青年部全国代表者会議、第七回青年部ブロック代表者会議が七月二九、三十の両日京都グランドホテルにおいて開かれた。全国各地から四〇〇名余りの代表者が集まり、会場となった「春秋の間」は若い熱気が満ちあふれていた。開会式は二九日午後一時から「春秋の間」で行われ、海外出張中の鴨雲齊家元の名代として、村上副理事長から「昨秋奄美大島支部青年部が発足し淡交会全支部に青年部が出来大変喜ばしい事であり、到るところで青年部の活躍を耳にし、心づよく感じているが、今後、めまぐるしい社会環境の下でどのような活動をしていけばよいかを真剣にこの二日間協議して欲しい。」との挨拶の後、来賓としてご出席の松原泰道老師の「曹源一滴」と題する講演に続き、午後三時からブロック長、部長合同会議及び十二の分科会（約二十名一グループとなる）に分かれ左記十二の議題について、熱心に討議が行われた。

- 一、シニアの問題について
- 二、会員の増強について
- 三、後継者の育成について
- 四、支部青年部内の支所、分會班、方部制度の長所短所について
- 五、親支部との関係について
- 六、ブロックと各青年部との関係について
- 七、御家元指導方針の具現化について
- 八、親支部との協賛行事について
- 九、地方自治体または、他青年団体との協賛行事について
- 十、任意参加のクラブ制度について
- 十一、レクリエーションの取り入れについて
- 十二、機関紙の発行について

分科会終了後懇親会が行われ、ブロックごとに余興が飛び出し楽しい一時でした。

翌三十日朝七時から京都支部青年部の呈茶席が設けられ朝早くからの心づくしに感謝して一盃をいただき、九時より全員春秋の間に集まり、昨夜この日のために一時帰国されたお家元の道話が行われた。その中でお

青年部綱領

我々茶道を愛好する青年としての自覚により、淡交会の諸活動に協力し、お茶を通じて、良識ある近代人としての人間形成に努め、同志的結合によって結ばれた友情と情熱で正しい地域社会発展の為に努めよう

家元は「現在茶道人口が増えていくことは大変喜ばしいことだが、情緒なき享楽者、精神なき専門家が多くなり、残念なことである。青年部の使命は、精神ある智慧を開拓して、種々の困難に若さで頑張ることを「お家元と語る」が渡辺全国委員の司会によって進められ、いろいろな質問に簡潔に説明があり、十一時から全体会議に移り、ブロック長部長合同会議、各分科会のまとめがなされ、村上副理事長の総評があり、塩見全国委員長がお家元に今回の成果の謝辞を述べ全日程を終了した。

（坂井千恵子）

第十一回北信越ブロック研修会は九月二、三日の両日、残暑が続いているとはいえどことなく秋を感じさせる風が海辺より吹いてくる新潟市で行なわれました。富山支部からは池田部長をはじめ二十名が参加。三時間半の汽車旅行の後、会場に到着し、香煎を戴いてホッと一息入れると間もなく開会式となりました。それぞれの支部の青年部員二百余名と、担当の新潟親支部の支部長、先生方、総本部より吉田氏、講師の沢木先生等が一同に会し、利休居士道歌と「ことば」を唱和し、黙祷の後ブロック長、担当支部々長の挨拶、来賓の祝辞が述べられ閉式となりました。

第11回

北信越ブロック研修会

—— 新潟に集う ——

入れるには「後継者養成（役員リーダー）について」「よい広報紙（機関紙）の作り方」「青年部の持つ研修会とは」の七項目。折しも正会員は四十才まで、シニアは五十才、ジュニアは二十才未満と新しい規定の出された今日の青年部としては、丁度転換期を迎えた時と言ってよく、どのテーマを取ってもお互いに関連があり常に考えていかねばならない事柄なので、短時間で結論を出すには困難なものばかりでしたが、顧問の先生方や講師先生などの助言も受けてようやくまとまりました。

に笑い興じ、御馳走の合間に出席される「茶室における三露とは何か」などのクイズに頭をひねり、茶道を通して心一つに結ばれた仲間間は和気藹々の中に楽しい一時を過ごしました。第二日は早朝六時から

の坐禅で始まりました。七時から初秋の高原を思わせる趣きでお茶が呈せられ一同清々しい気持ちで全体会議に臨みました。昨日の難行した分科会のまとめが報告され、一見あたりまえのようでありながら、その平凡な事が一番実行しにくいということを改めてかみしめながら、大会テーマの「生活の中に青年の茶を活かそう」が決議されて会議は終了されました。

その後、淡交会専務理事の沢木敬先生より講話を戴きました。妙蓮寺椿の逸話や、仕合せとはお互いに仕えあうと言うこと、陰徳はせっかくだいことをしてあげたのにお礼も言われないと思う時、それは既に陰徳ではなくなるということなど、日常の中のお茶の心についてしみじみとお話し下さいました。当初は七月に赤倉の地で開催される予定が、五月の災害で急遽変更となり大変御苦労なされた新潟支部の皆さんに厚く感謝しつつ、次回は福井にて開催されることを約して二日間の研修会は完了致しました。富山からの一行は汽車時間までの一時を会津八一記念館で、氏の書と歌にふとお茶の心を見るような気持ちに浸ったりして帰途につきました。

（和田道子）

第十二回北信越ブロック
研修会は、「謙虚な心で青
年の茶を深めよう」を合言
葉に、六月九日・十日の両
日に亘り、福井支部青年部
の担当によって、福井市農
協会館で行なわれた。九日
午後三時から始まった開会
式は、開会の辞に続き、利
休道歌・ことば・青年部綱
領の唱和・黙
禱と、進行し
たのち、来賓
紹介、参加青
年部紹介と続
き、品川一郎
ブロック長と、
清水慶造福井
支部青年部長
の挨拶があっ
た。

その後、七
つの分科会に
分かれ、それ
ぞれの分科会
のテーマは次
の通りであっ
た。
第一分科会
「茶会のあり
方」
第二分科会
「男子会員増強
の方策について」
第三分科会
「地域社会に根
ざした活動のあ
り方」
第四分科会
「日常生活の中
に茶道を積極的
に取り入れるに
は」
第五分科会
「よりよい広報
紙の作り方」

第12回 北信越ブロック研修会

—福井市に集う—

第六分科会「青年部のよ
研修会とは」
第七分科会「低年齢層への
アプローチにつ
いて」

この後、懇親会が行なわ
れ、そこでは各自が、一茶
人として、あるいは一社会
人としての交流があった。
また各支部ごとの歌などが

披露され、富
山支部もナツ
メロとニュー
ミュージック
を歌って盛大
な拍手を得た。

翌日の十日
は裏千家学園
講師・鈴木宗
康先生による
記念講演が行
なわれた。演
題は「お菓子の
話」。
その内容を大
別すると、奈
良・平安時代
には、まだお
菓子は、米か
ら作られた、
もち、あめで
あったのが、

時代と共に移り変わって、
江戸時代になって、真の和
菓子の大成となったという
日本の菓子の歴史について
もう一つは、外国のお菓子
にはまったく無い、視覚・
触覚・味覚・臭覚・聴覚と
いった五感を持った日本の
お菓子の性質と特徴につい
て。鈴木先生は、時折ユー
モアを混えながら、そ



一つずつを簡明に説明され、
参加者は熱心に聞き入って
いた。

最後に、全体会議が開か
れ、代表者による各分科会
の発表報告、および研修会
の反省を行ない、また次回
の開催を長野支部に委ねて
第十二回北信越ブロック研
修会は、予定通り終了した。

青年部綱領

我々茶道を愛好す
る青年としての自覚
により淡交会の諸活
動に協力し、お茶を
通じて、良識ある近
代人としての人間形
成に努め、同志的結
合によって結ばれた
友情で正しい地域社
会発展のためにつと
めよう。

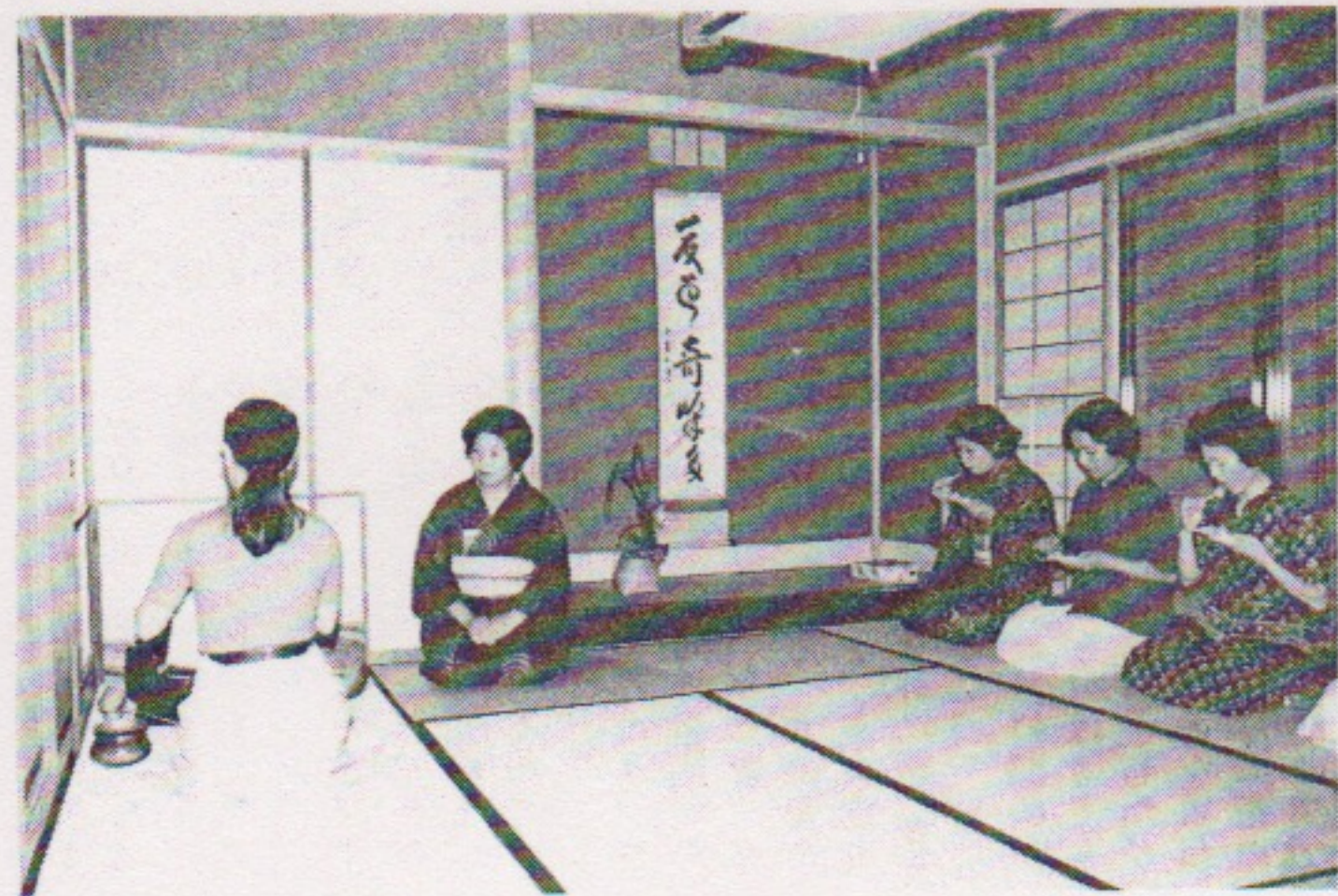
あじやまします

堀辺社中訪問

まだ梅雨のあけきらない
七月十四日、富山市中島に
ある堀辺先生のお宅を訪問
しました。近くに工場地帯
があるとのことでしたが、
たいへん静かな住宅地の中
にあり、私達が着くと打ち
水のしるある玄關から、先
生が迎えて下さいました。
お弟子さん方も、もうすっ
かり準備の出来たお茶室で
私達を待っておられた様子
さっそく、おけいこが始ま
りました。まず、席入りが
きちんと行なわれ、おけい
ことは思えない緊張感の中
でお濃茶の手前が始まりま
した。ピーンと張りつめた
雰囲気、私達にも伝わっ
て思わず正座する静かな一
時。床のお軸は稲葉心田老
師の「夏雲奇峰多」の一行。
爽やかな大らかな夏の雰
気。花は「てっせん」む
くげ。やはらずすぎが
手付箋にみごとに調和して
います。お弟子さん方に細
かなところに注意を向けて
いらっしゃる先生のお姿を
拝見していると、まず、自
分にも厳しい方だと思いま
した。

先生のモットーをお尋し
たら、「和ということです
ね。いろいろなありますが、
茶道の上でも生活の中でも
人間関係の和という事が大
切だと思いますよ」静か

お言葉の中にも、茶道にか
ける情熱がキラリと・・・。
おけいこの中でも和とい
う事を実践なさっていらっ
しやるから、お弟子さん方
も長く先生のところへつい
てこられるのだなと思いま
した。お薄点前が始まり、
私達もお茶とお菓子を御馳
走になり、「もう一服い
がですか」と先生がいわれ
ると、すぐに水屋から一服。
何か取材に行った事を忘れ
そうな楽しい気持ち
にさせ
られました。
「お
けいこ
以外で
工夫
なさ
る事
で
親睦
をは
かっ
てい
らっ
しや
るこ
とは
」と
お聞
き
すると
「みな
で茶
花を
つま
みに行
った
りし
ました
ね。」
「八尾
の方、
猿倉
の方へ
も」
お弟子
さん方
も話



しに加わって、チームワー
クの良さにまた感心。
「いろんな個性を持った人
が私の回りに集まってきた
くれて、お茶会の時など本
当に大助かりですよ。」と
にこにこして、おっしゃる
先生。時間がたつのがとて
も早く、気がつくとも二時
余もおじゃましてしまい、
研修会を控え、何かとお忙
しい中、先生はじめ、お弟
子さん方にいろいろ教えて
いただくことの多かった社
中訪問でした。どうもあり
がとうございました。

稲刈り終りに近づいた、九月二十七日、私達青年部十余名は、「第十三回北信越ブロック研修会」に参加すべく白馬山麓の会場へ向った。今秋は、寒さのせいか窓から見える紅葉は少し褪せて見えた。

会場に着いた私達は長野支部の人達に暖かく迎えられて早速、式典に参加した。その後ついで分科会

があり、分科会では、七組に分れて「地域社会の中に青年の茶をひろめよう」をメインテーマにして、第一、

ジュニア会員増強の方策について、第二、地域団体との協賛行事につ

いて、第四、支部内の分会・班・クラブ制度について、

第五、後継者の育成とシニア会員について、第六、機関誌の作り方と広報活動について、第七、

レクリエーションのとり入れについて以上の事項について各支部が担当（議長）して協議しました。

自分が参加したのは、第七分科会なので、それについて記してみると、各支部共青年部会員すべてを対象にしたレクリエーションは

なく、どちらかと言えば、幹事中心のレクリエーションを行っている。例えば、茶花ハイキング、陶芸教室などである。要するに、レクリエーションといえるものか判断しかねることを行っているのが現実である。茶以外では青年部会員が集まりにくいので、結果として、各支部の現状にあった行事をして青年部の交流を計る。以上のことが熱心に討論された。

第13回 北信越ブロック研修会 白馬山麓に集う

杉森社中 内村浩司

この研修会で特に異色だったのは、青年国際交流指導者として、ブラジルのアミルカル・ザニ・ネル氏とメキシコのアナマリア・カクロ・ファルさんの両名の参加があったことです。両名との交流を計るために会話のできる人を選択し、別の分科会を設け交流を深めた。分科会のあと、懇親会に移り親睦を深めた。

翌日は、早朝より、窓から白馬の山々が、まるで私達を歓迎するかのようにみえた。呈茶をすませた後、講演会の会場に移った。講師は、松本の民芸館館長である池田三四郎先生で、テーマは「暮らしの中の美」（茶と人間）でした。内容は、現在の日本の、感覚意識が機械文明によって失なわれてゆくことが大変な悲しみであり、ヨーロッパでは産業革命によって伝統文化が失なわれたという歴史的事実を通じて、茶と人間の係わりを話された。

短いようで長く充実した時を過ごし閉会式をすませた後、八方尾根スキー場の第一ケルンの所まで行き、秋の白馬の山々を満喫し、富山へと帰途についた。この研修会に参加して一番感じたことは、各地で我々青年が茶を通じて、「道・学・実」の実践に臨んでいるというところを実際に知り、より一層の努力が必要だということであった。



チャリティ茶会収益金を 富山市に贈呈

十月二日の十一時、富山市役所において、チャリティ茶会（五月二十五日）の収益金四十二万円の贈呈が行なわれました。富山市では、城南公園に仮植してある樺の苗木の一部にあてるとのことでした。



◇ 新部長 ◇

第九期（五十六・七年）の青年部長には、今期幹事長として常にその管理能力を発揮された佐野川論さんが選出されました。

茶道を通じて日常生活においても、奉仕活動、社会活動においても、お茶の心を実践に移して、幅広くその輪を広げてゆこうとしている青年部からも、また淡交会富山支部四十周年記念行事を五十六年にひかえた親支部からも、大いに期待されています。

御紹介します 新部長・幹事長の横顔

「青年の船」

飯田社中。

◇ 新幹事長 ◇

方にも造詣が深く、勤務先の富山労働金庫ではオンライン企画室長という要職にある忙しい身上。当青年部では総務委員長、常任幹事を歴任。

新幹事長として選出された今井秀昭さん、

「青年の船」

に乗船され、総務委員長、広報委員長、副部長を歴任された。青年部はえぬきのベテラン。佐野川新部長の良き片腕となつて、青年部の団結と発展に寄与されることでしょう。

富山県農業試験場勤務。赤間社中。

編集後記

今回の三十一号をもって第八期の広報委員による「あすなろ」の編集は終了します。

長いようで短い二年間で、昨年の十五周年記念特別号の編集もあつて、広報委員は毎回よく集まることは集まりました。

様々な行事や講演などの報道と、青年部の歩みの記録として、会員の皆様に喜んで読んでいただけたら、「あすなろ」を目指してききました。その思いの何分の一も達成されずに終ってしまいました。この間に、諸先生方をはじめ諸先輩方、会員の皆様に多大なご協力をいただきましたことを、心より感謝致します。



第十四回北信越ブロック

研修会は六月二十、二十一日、青葉が映える黒部峡、宇奈月町延対寺荘に約二百名の青年が集い、魚津支部担当で行われた。

富山支部からは佐野川部長を始め二十二名が参加した。自家用車に分乗して会場に着くと、

新しい白木の香りが漂う茶室に案内され、眼下に黒部川と青山を望み、

心温る一盃を手にした。

開会式は総本部奥田、橋本両先生、魚津支部諸先生をお迎え、利休道歌、ことばの唱和、黙禱のあと品川ブロック長の挨拶、淡交会参与赤沼先生の祝辞をうけ閉会となった。

分科会は富山支部が座長を勤めた「ジュニアと共に」

第14回北信越ブロック研修会
—宇奈月で開かる—

“茶の道を広き世に出そう若き心で”



など七テーマについて、熱心に討議し、青年茶人のあり方を考えた。

懇親会は各支部から持ち寄った特産物や出し物に興じ、楽しい一時を過ごした。

二日目は全体会議がもたれ、各分科会の報告、総本部先生の御指導を受けたあと、吉友嘉久子レポーターの講演を拝聴して、会議は終了した。

講演

ラジオこぼれ話を聞いて

佐々木育代

このたび、淡交会青年部の一員として、北信越ブロック研修会に参加させて頂きました。お互いに茶道という共通の部分を持つている人達と、新しく巡り合う事で、あらためて自分の勉強不足を、しみじみと感じました。そして、研修会に参加しての感想文でもと、言われて何を、どういうふうにか迷っています。ここで、お茶の心のさわり文句を述べるのもおこがましく、私が特に感銘を受けた、北日本放送レポーターである、吉友嘉久子さんの、「ラジオ、こぼれ話を聞いてみます。」を書いてみます。

狂ったニュースが飛び交う現代に、鳥の世界（ツバメのおはなし）までにも、

なし、その上、縁側のタタキは雨ざらしとあっては、雨が降れば入口は一つ。それ全くないないづくし。それ

でも必死に知恵を絞る、嫌わず、ク

九里啓子

茶反

木本社中

生徒の提案に、即、賛成したのが二年生の面々。もと宿直室だった和室には当然のことながら水屋の設備

活動しようという生徒の熱意に押され、和室で行うことに決定。まず、計画表作成、役割

影響をひきおこしているという事。そして、今年は国際障害者年です。ある新聞で読んだのですが、障害者という言葉は、おかしい。

厚生省の最大ミスである。障害者、という語句を引くと、「さまたげ、さしさわ

り」と載っていて、つまり「じゃま者、さまたげ者」という事で、もったいない言葉はないだろうか。障害者なんて、安易にうたってしまわないで、もっといい日本語をみつければどうと

また、病院のベッソ生活をしている一女性からの、一通のお便り。幸わせとは、何か。人間、生きているからこそ、喜びも、悲しみも、感じるものであって、いつも、愛ある心を強くもち、明日に向って生きよう。ユーモアたっぷりの話し方で、まだまだ続きますが、その、

どれにも、目頭が熱くなり頭を上げる事ができませんでした。

分担、和室の大掃除、道具の準備、チケット作り：等々。その間、障子の張り替えは用務員さんに、色紙は書の堪能な先生に、琴の曲のテープへの吹き込みは音楽の先生にと、あつかましくも頼み込んで快諾していただきました。

そして当日。香の香の漂う中、授業中とは全く違う生徒の顔、顔。目と目でサインを送り、静かにお点前や、お運びをする生徒、

「とき 昭和五十七年 二月二十八日 富山県護国神社（富山市磯部町） 午前九時〜 午後三時

「受付

「あすなろ」三十三号をお届け致します。年の瀬も押し迫って、やと皆様のもとにお届けする事が出来ました。次回こそはもっと早く、まとまりのある「あすなろ」をと広報委員一同、気持ちを引き締めて参りたいと思います。まもなく北陸路には雪が降ってきますが、皆様方には健康に留意され、新らしい年をお迎え下さいます様お祈り致します。 合掌

五十七年度

行事予定

春晩の茶会（護国神社）

二月二十八日

老師に聞く会 四月二十五日

宗家研修 四月十二又は十七日

チャリティー茶会 五月十六日

北信越ブロック研修会 六月十二、十三日

青年部全国大会 七月十七、十八日

茶約けづり 八月二十二日

講演会 十一月七日

春晩の茶会

「とき 昭和五十七年 二月二十八日 富山県護国神社（富山市磯部町） 午前九時〜 午後三時

「受付

「あすなろ」三十三号をお届け致します。年の瀬も押し迫って、やと皆様のもとにお届けする事が出来ました。次回こそはもっと早く、まとまりのある「あすなろ」をと広報委員一同、気持ちを引き締めて参りたいと思います。まもなく北陸路には雪が降ってきますが、皆様方には健康に留意され、新らしい年をお迎え下さいます様お祈り致します。 合掌

編集後記

「あすなろ」三十三号をお届け致します。年の瀬も押し迫って、やと皆様のもとにお届けする事が出来ました。次回こそはもっと早く、まとまりのある「あすなろ」をと広報委員一同、気持ちを引き締めて参りたいと思います。まもなく北陸路には雪が降ってきますが、皆様方には健康に留意され、新らしい年をお迎え下さいます様お祈り致します。 合掌





尽くそうニ示そう愛の心で
茶の道 茶の湯 茶の会 会場

と き 7月23日(日) 受付・午前9時～午後2時
雨天の場合 富山県立総合体育館(富山県富山市) 午後9時

主催 茶湯裏千家談交會
富山支部青年部



「ふるさとで活かエ茶の道」というテーマで、第十五回北信越ブロック研修会は、天候に恵まれ、六月十二日、十三日の両日に渡り、佐渡、両津市の吉田屋ホテルに於いて、淡交会総本部より青年部部長、関根秀爾先生と青年部担当の橋本一郎先生をお迎えして、各支部より二百余名の参加で開催されました。

開会式では、関根先生から、お家元御長男が、若宗匠となられ、座忘斎玄黙宗之と名がられることになったことが報告されました。

また、お家元より北信越ブロックに、自筆の掛け軸とお茶杓が送られ、今回の研修会呈茶席で使われていることも、品川ブロック長から報告されました。

開会式の後、二十班に分かれ、分科会として「お茶との出会い」「お茶を伝えるには」といういずれかのテーマで二時間余りに渡り、それぞれ討議されました。

懇親会では、各支部、和やかに交流を深め、楽しいひとときを過ごしました。

翌日は、田中圭一先生の「佐渡の金山」という表題で、佐渡の歴史について、私達の知らなかったことなどを、興味深く、わかりやすく講演されました。

引き続いて全体会議で、

北信越ブロック 研修会に参加して

——佐渡で開催——

会には修了致しました。

この北信越ブロック研修会に参加して、改めて、考え、学んだことが多かったと思います。

「この会で話し合われたことを、それぞれが一つでも実践にうつしてほしい」、また、「『一盤からピースフルネス』を忘れず、常に相手の立場にたって行動してほしい。」と述べられ、無事、

お茶をはじめた動機や、お茶に対する考え方、どのようにしてお茶を広めるか、今後の私達の成すべき事等前日の分科会で討議されたことが、発表されました。

総本部の先生方の総評では、



抹茶・茶の湯道具

栗 林 園

富山市千石町通り 電話 0764(21)5147代表

政府登録 旅館
国際観光

結婚式・披露宴・御会合に

海 老 多

本館(代表)(32) 3176
別館(代表)(32) 3181

北信越ブロック研修会に

参加して



高松社中 澤田真理
九月二十四日(土)二十五日(日)の二日間にあたり、石川県金沢市の金沢市文化ホールにおいて、第十六回北信越ブロック研修会が行われました。

研修テーマ
「魅力ある青年部づくりの為に」

分科会テーマ

- お茶ごっこから(ジュニアへのアプローチ)
- 何があなたを動かすか、あなたのエネルギーとなるものは?
- 楽しい企画、明るい運営
- あなたもニューリーダー
- 明日に向う青年部

の五分科会

私は「明日に向かう青年部」の分科会に参加し、先生方、先輩方のお話を聞かせて頂きました。

「自らが未完成であることを、それぞれが気付けば、世の中には何の争いもおこらないのです。」

「自分は未完成だということを知って、完成に近づく為に一生かけて努力することです。私だってまだまだ、未完成なのです。」

との、先生方の謙虚なお言葉に、改めて自分の未熟さを知り、もっと謙虚にならなければいけないことを教えて頂きました。

最近では、仕事の関係で、お稽古へ行くのも遅い私。それでも休もうとせず通っている自分を思う時。それは……

「遅なってもおいで」と、おっしゃってくださった先生のお言葉。それ

がとっても嬉しかったこと。お稽古の中で、

「これが、働きなものです」との一言に、心配りを教えて頂けることなど、数多くのお教養に、ひきつけられる魅力があるからだと思っています。

「生き生きとした目で人を誘わなくては、

誰もついてはきませんよ」との分科会での話に、師、先輩と、輝きのある目をしてもらえる方々の中で、育てて頂いている私なんだと気付く時。今の環境に感謝し、

生意気ではありますが、私も生き生きとした目の人となれますよう、努力しよう

と、心に誓うものでございませう。



青年部綱領

我々茶道を愛好する青年としての自覚により、淡交会の諸活動に協力し、お茶を通じて、良識ある近代人としての人間形成に努め、同志的結合によって結ばれた、友情と情熱で正しい地域社会発展のためにつとめよう。

銘菓 越中絵巻 越の華
清 進 堂

富山市諏訪川原通り平吹町 電話(0764)24-8430
中川原店 富山市中川原390-3
富山西武地下銘店街
五福 ハロー店

政府登録 旅館 結婚式・披露宴・御会合に
国際観光

海老亭

電話 本館(代表) (32) 3176
別館(代表) (32) 3181

大海原でみどりの集いを 第17回 北信越ブロック研修会に参加して

九月八日・九日

第十七回北信越ブロック研

修会は九月八日(出)・九日(日)の二日間にわたり、白砂青松が緩やかな波に映る氷見市灘浦海岸の氷見グランドホテル「マイアミ」において、高岡支部担当で行なわれ八支部から約二百名の会員が集った。

富山支部からは佐野川部長を始め二十名が参加した。八日(出)十二時、富山駅日通前を出発し万葉のふるさと高岡市をへて、富山湾を目のあたりに見る素晴らしい会場に到着すると早速、お茶室にて蒸したてのおまんじゅうと心温るお薄を頂いた。

別室にて役員会、ブロック協

議会が行なわれ、開会式は総本部村上課長、地区参事諸先生をお迎えして、利休道歌、ことばの唱和、黙禱のあと吉井ブロック長、高岡支部青年部井出部長の挨拶をうけ三日間の幕開けとなった。

分科会は二大テーマに分かれ、研修テーマ「大海原で緑の集い」にふさわしく、富山湾にて船上会議がもたれた。



分科会テーマ

○「茶道による文化交流」を考える

○「生涯教育としての茶道」を考える

各分科会では船酔いにもめげず、それぞれお茶をはじめた原点にもどり、熱心に討議され、意見を交換しあった。

懇親会には揃いのほっぴに帆柱起し祝い唄

で幕あけし、各支部持ち寄りの名産品や隠し芸に楽しいひとときを過ごした。

二日目は朝六時にホテルを出発し、松田江浜にて地曳網おこしをした後取りたての新鮮な魚を入れて煮たかぶす汁を朝食に頂き、雨の中で網を引いた話に花を咲かせた。

分科会座長と総本部打合せ会、一ノ瀬宗辰氏の「金工」について記念講演を拝聴したあと、全体会議がもたれ、総本部先生の御指導をうけ研修会は終了した。

青年部結成 二十周年記念行事

とき 昭和59年11月17日(出)

ところ 富山第一ホテル

富山市桜木町10-10

受付 十二時より

呈茶席 三階ロビー 十二時～一時半

記念式典 三階 一時半～二時十分

記念講話 三階 二時十分～三時十分

講師 今日庵業舩

石川宗仁先生

修練へのいざない 三時十分～四時

担当 男子会員

懇親会 三階 四時半～六時半

投稿募集

広報では「茶友 みんなの広場」で皆様から寄せられた原稿をのせております。今後、さらに拡充して、全員参加の「あすなろ」を目指して行きたいと思っております。

日常、お茶を習って感じたこと、疑問に思う事、青年部活動に対する意見、ご希望、各行事に参加されてのご批判、ご要望等、どんな事柄でもどんなお寄せ下さい。投稿された方には粗品進呈。

編集後記

急に木々が色づき始め、冬への足音がひしひしとせまる今日このごろです。

今年は、冬の大雪に驚かされ、夏は夏で猛暑続き。そして今一足飛びに晩秋…。今年ほど季節がはっきりした年はなかったかと思う。「あすなろ」四十号もそういった関係もあってまた遅刊、深謝。

次号からは、新委員にバトンタッチいたします。これまで以上のご支援・ご協力をお願いいたします。

なお、ご寄稿下さいました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

第18回北信越ブロック研修会

立山山麓に200名の若人が集う



「青年の一盃で大自然と語ろう」を合言葉に

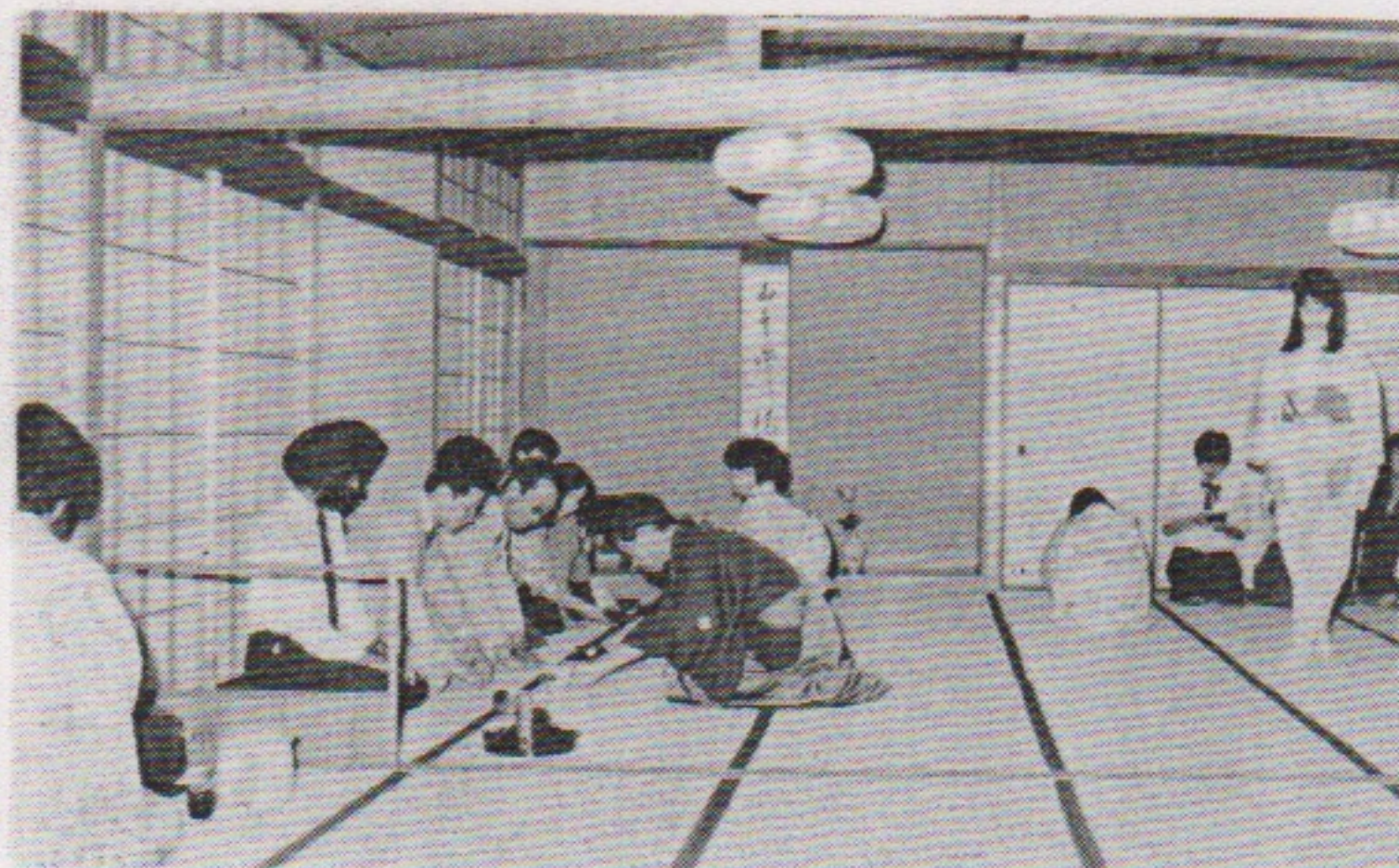
第十八回茶道裏千家淡交会青年部北信越ブロック研修会は、九月二十二日～二十三日、「青年の一盃で大自然と語ろう」をテーマに富山支部青年部担当のもと、立山国際ホテルで開催された。

北信越の各支部からの参加者は、受付で登録後、呈茶席へと進んだ。床には、鵬雲斎家元筆の「山雲海月情」が掛けられ、今回の研修会ではお互いに腹を割って語り尽そうと言う心情がうかがわれ、幹事手作りのお菓子とお茶でもてなした。

役員会では、今後のブロック運営方法や会員増強について協議された。開会式には、総本部の村上青年部課長、品川全国委員長、岩谷バスト全国委員、富山支部からは、長江副支部長、飯田幹事長、池田副幹事長始め、諸先生方のご参列のもと、二百余名の会員が参加。開会の辞、利休居士道歌・ことばの唱和、青年部綱領の朗読、物故者への黙禱と続き、来賓紹介、参加青年部の紹介があり、吉井ブロック長の挨拶、総本部村上青年部課長の挨拶の後、長江副支部長と品川全国委員長との祝辞を頂戴し、今井部長の挨拶で開会式を終えた。次いで、「山と雪に生きる」と題して登山家佐伯富男先生の記念講演があり、南極第一次越冬隊員、エベレストスキー探検隊に参加された時の話を中心に、「自分は裏方の仕事に徹し、又、それを誇りとしている。そして、立山の自然は自分の母であり、先生であり、唯一の友でもある。」と語られ、私達に深い感銘を与えられると共に組織運営等と今後生かすべき指導をいただいた。

会 記

床 鵬雲斎家元筆 山雲海月情
花 秋明菊
花入 粉引耳付 神通窯 孝嗣作
香合 有峰ノ狛犬ヲ写ス 映仁作
風炉先 神代杉竹文透腰 一夢作
釜 鵬雲斎家元好 遠山 寒雉作
風炉 時代唐銅面取
水指 信楽写 二代菁華作
薄器 利休好 再来棗 淡々斎在判
道寛作
茶杓 井口海仙作 銘弥陀ヶ原高原
茶碗 絵唐津円相 重利作
替 膳所 色絵秋草
蓋置 青竹 引切
建水 唐銅 七宝象嵌 鵬雲斎家元
箱 敏彦作
茶 苔の白 小山園詰
菓子 山土産 幹事手作り
菓子器 金銀彩 秋野 光右衛門作
煙草盆 糸目山道盆 淡々斎在判
万象作
火入 越中瀬戸 瓢 由紀夫作
煙草入 淡々斎好 紙 唐松文
吉兵衛作
煙管 玄々斎好 筋 浄益作



懇親会は、幹事の日舞「扇かざして」で幕が落され、長江副支部長の乾杯の音頭で宴が始まった。長江副支部長は乾杯の中で、「今日のこの雨も幹事の願いが足りないからだし、私達が役員をしていた頃は、皆で一生懸命お願いした気持ちを通じて大変恵まれたものです」と遠い昔を懐かしまれた。宴が盛り上がる。

熱心な討議と親睦の輪をひろめる。

ったところで、来賓の方や各支部から歌・寸劇・手品等の余興が出され、ますますブロックの意気が上った。最後に、全員のキャンドルサービスで連帯感を強め、幕を閉じた。その後、夜遅くまで交流が行われ親睦を深めた。

二日目は、前日からの雨がますます強くなり、称名滝を見ながらお茶一服の予定も変更し、ホテル内に呈茶席を設け、幹事手作りの干菓子と薄茶をお出した後、二台のバスに分乗して称名滝へ。雨と滝の雫でずぶぬれになりながらも、雄大な姿に参加者は満足そうであった。

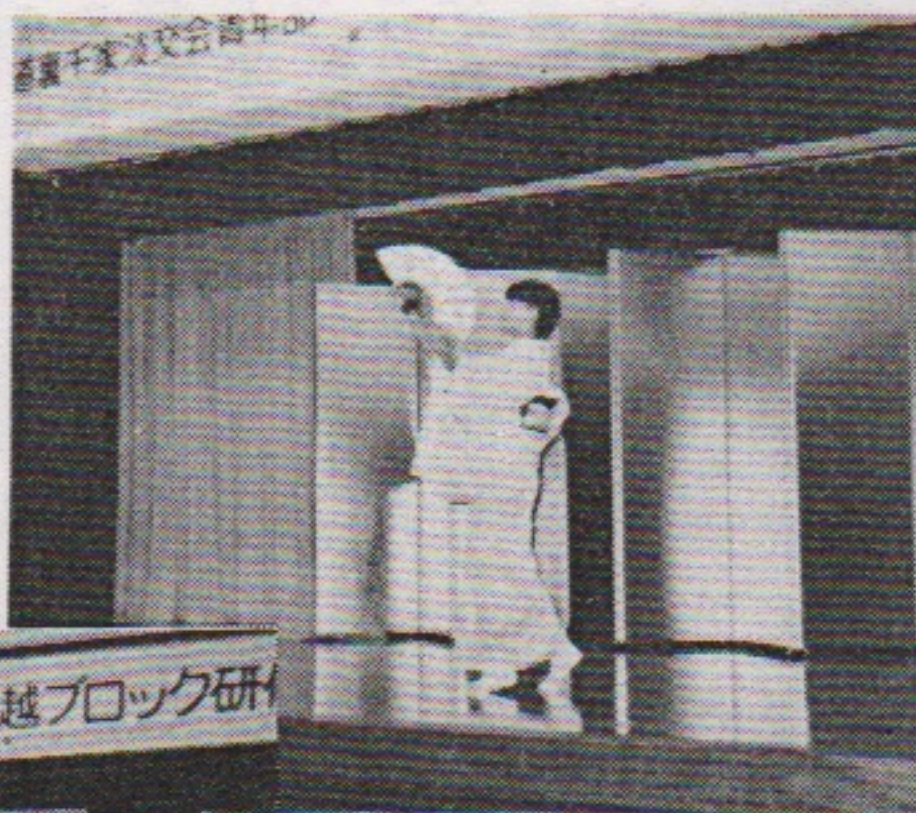
分科会では、一人でも多くの方に意見を述べていただくため、五、七人の年代別からなる二十分科会で、「地域社会における青年茶人の役割」のテーマについて、もう一方の分科会は、幹事長を対象とし「組織の人材養成（将来の淡交会青年部を考える）」で、双方共、予定時間をオーバーする程活発な意見交換となった。

全体会議では、各分科会で話し合った内容を報告し、総本部村上青年部課長より御指導を頂いた。

閉会式では、次期は新潟支部が担当することを確認し、再会を期して二日間に亘った研修会を閉じた。

それは突然日舞から始まった ▶
—懇親会—

▼日本人もビックリ
国際青年年にふさわしく



▲ユーモアを交えての熱演
佐伯先生の講演

▼童心に返って





植物あったのかと思うようなばかりでした。まわりの風景もきれいで、写真をとりたいなあと思うくらいでした。でも、がけの所を歩いていったので少しこわかったです。でも後に看護士のお兄さんもいたし、なれていたのでそんなでもなかったです。キャンプについて、いろいろな人とふれあったり、友達になれたり、いろいろな経験をしたので行ってよかったなあ、お茶を習っていてよかったなあと思いました。

ただ私の意見として、少女ジャンボリーなのだから、火やガスなどが使えない生活をあまりあじわえなかったと思います。やっぱり、子どもたちが子どもたちのうでで作ったごはんなどを大人の人に食べてもらって、「ああ、おいしい。」なんて言われると自信がつくものです。

だから、こんどは何でも子供たちがこの少女ジャンボリーで、たくさん学んで家でそれをいかすような取り組みをしてもらえたらいいなあと思います。

好きです人間、やります青年、集います北信越

第19回 北信越ブロック研修会

第十九回北信越ブロック研修会が九月二十日(土)・二十一日(日)の二日間にわたり、新潟支部担当で二百名の会員を集め、新潟市万代シルバーホテルで開かれた。

富山支部からは、来賓として新田支部長はじめ、今井部長以下十数名が参加した。会場到着後早々に受付、中食を済ませ、呈茶席へ足を運んだ。そこは躊躇に水が流れ、竹や木、垣根がほどよく配置されていて、ホテルの一室でありながら、さながら大自然の中の一壺といった風情であった。

開会式は総本部村上次長、地区参事諸先生をお迎えして、利休道歌、ことばの唱和、黙禱のあと、ブロック長のあいさつ、来賓の祝辞と続いた。

分科会では8人前後の小グループで、統一テーマである『貴重な青年時代になぜ「お茶」なのか』を心おきなく話し合った。

懇親会では、厳肅な日本舞踊で幕開けとなり、各支部の隠し芸の披露等で楽しいひとときをすごした。それから話が尽きず、二次会三次会と流れ、新潟の夜にひたった。

二日目は、分科会まとめとして座長の報告発表があり、講演会に移った。講師は禅哲学



者の是恒石雲氏で「なぜアメリカはいま禅なのか」という演題で講演された。キリスト教の衰退、禅宗の浸透等アメリカの現状とお茶と禅のかかわりについて話された。そのあと全体会議がもたれ、研修会は終了した。

なお、吉井清ブロック長が勇退され、後任に今井秀昭部長が内定した。

銘菓 越中絵巻 越の華
清 進 堂

富山市平吹町4-1 ☎24-8430
中川原店 富山市中川原390-3 ☎24-2512
富山西武地下銘店街 ☎21-6111
五福 ハロー店 ☎31-7698

政府登録国際観光旅館



漁 老 五

富山市桜木町 ☎32-3176代

滝の流れる活魚割烹

いさいさ亭

富山市桜木町 ☎32-3181代

MEDITATION in FUKUI つくりつたえ 語り合う 第20回 北信越ブロック研修会

第二十回北信越ブロック研

修会が、九月十二日(土)・

十三日(日)の二日間、福井

市ユアーズホテルフクイを会

場に盛大に開催され、富山支

部からは新田支部長様を始め、

今井ブロック長、中川部長他

十三名が参加しました。

一日目は開会式に続き、大

本山永平寺副監院佐藤宗紹老

師様の「茶禅一味について」

の講演の後、「『ことば』を

考えよう」をテーマに分科会

へと移りました。懇親会では、

各ブロックから苦心の余興が

出され、我支部も、揃いの浴

衣姿に編笠を被り、越中おわ

ら節を踊り流し、見事

優秀賞に輝き、永平寺

監院上月照宗老師筆色

紙「夢」を頂戴しまし

た。

二日目は、北信越ブ

ロックとしては始めて

の実技講習会が行われ、

後藤宗国業跡先生より

お辞儀の仕方から歩き

方、帛紗の扱い方、茶

杓の拭き方などの割稽

古、盆略点前、薄茶点

前と、二時間に渡って丁寧

なご指導を受け、参加者一

同帛紗を手にし、初心に帰

り、一つ一つ心をこめて熱

心に取り組みました。

尚、両日共、準備されて

いた呈茶席では、永平寺管

長筆の軸が掛けられ、道元

禅師ゆかりの地らしく落ち

着いた雰囲気の中でお薄を

頂きました。

二日間密度の濃い日程で

特に講習会での緊張感から

幾分疲れを感じながら、大

変充実した研修会を終了し

ました。



毎に木々が彩づき、紅葉の見頃が近づきますと、いつもなつかしく思い出す茶会が過ぎます。

大学四年生の秋、高台寺の鬼瓦の席(灰

屋紹益の好みでと伝えられ、もと妻に左入

の焼いた鬼瓦が乗っている)での月釜を当

番した時のことです。当時(昭和三十四年)

は茶道人口も現在程多くなく、のんびりと

ゆったりとした茶会が多かったです。

その日のお客様は百八十人位だったと思

います。鬼瓦の席のお薄席と、庭園での蕎麦

席との二席でした。暖かい秋晴れの良い日

で、こんな素晴らしい日に京都での

学生生活の最後を飾れて嬉しく、

浮き浮きした気分

でございました。茶

席は四畳半です。十人余りしか入席して

頂けず、又、ゆっくりしていた為か、午後

三時頃にはまだ、待合に二、三十人の方が

待っていました。十一月のこと

とて日の落ちるのが速く、席中が段々薄暗

くなってまいります。茶席には照明の設備

はなく、点前をしていても何だか落ち着き

ません。どうなることかと心配して居りま

したら、急に背中の方から灯りが差し込ん

でまいりました。燭台が持ち出されたので

した。ほっとして、そして俄に和らいだ、

華やかな茶席となり、何とも表現し難い感

出 会 い

青年部相談役

坂 井 千恵子

動を受けました。この一會が、私に茶の道を歩ませる「縁」となったのではないかと

思っています。

人との「出会い」、物との「出会い」が

縁となって、人生の歯車が回っているように感じます。

青年部員としてお手伝いさせて頂いた時

の数々の行事のうちで、特に深く心に印象

づけられているものを振り返ってみますと、

常に良い人々、良い物との「出会い」があ

りました。五十二年に立山国際ホテルで当

支部が主催した北信越ブロック大会は、ま

さに良い人々、良い

物との「出会い」の

最高峰であったろう

と思います。ご参加

頂きました皆様の満

足されたお言葉に、

大成功に終った感激に浸りました。大きな

行事には、いかに人と人とのつながりが大

切であるか、その為には常に無功徳である

こと——これは、お茶の世界ばかりでなく、

一般社会生活にも大事なことでないかろう

かと考えます。

茶の道を歩み始めて三十年にして、漸く

楽しみ方が分りかけて来たように思います。

もっともっと研鑽を重ね、汲めどもつきぬ

茶の湯と友となって、感情豊かな人間にな

れるよう、努力して行こうと思っ

第二十一回北信越ブロック研修会

今、感性がこだまする信濃の山々に

第二十一回、北信越ブロック研修会、行きました。

ブロック研修会は、十月八日(土) 二日目は、早朝より呈茶と九日(日)の二日間にあたり、を頂いた後、小林宗善業跡志賀高原、丸池観光ホテル 先生をお迎えして、歩き方、にて盛大に開催されました。帛紗の扱い方、茶杓の拭き富山支部からは今井プロック長を始め、中川部長他、二時間に渡り、参加者一同約二十名が参加しました。帛紗を手にして熱心に指導会場到着後早々に受付を済ませ、ホテルの前方にある丸池のほとりにて呈茶を頂きました。色づき始めた木々を見ながらの一盃は、とても心温まるものでした。開会式に続き行われた分科会では、①広報活動、②青年部の楽しい企画、③もてなしとは、をテーマに、青年部らしく若々しく明るい雰囲気の中で積極的に意見を交換し、全体会議で発表しました。

その後の懇親会では、各支部持ち寄りの名産品や屋台などが並ぶ中、歌や踊りの余興で信濃の夜はふけて



第21回北信越ブロック研修会

小寄せ茶会



秋晴れの十月十六日、富山能楽堂茶室にて、小寄せ茶会が行われ、一席十名づつで七十名のお客様にお越し戴きました。名残りの時節とあつて濃茶席では、欠風呂に藁灰でのおもてなし。男子幹事のお点前でゆつたりと濃茶を召し上がった戴きました。一方、明るい薄茶席では、半月弁当に銀杏御飯、鯛の向付、生鮭の幽庵焼、里芋と鳥肉の信田巻と人參の炊合せ、蟹と菊と三ツ葉のお酢和えを盛り付け、煮物椀にしめじ真薯、八寸にはイカの松かさ焼と栗の渋皮煮をお出しし、一献召し上がった戴いた後、薄茶を差し上げました。



会記

寄付

床

田山方南筆

芒画賛

薄茶席

泰道老師筆

山夕陽時

黄盆

またもこよ

表完造

蓋置

鳥羽玉・雄山火口・

見返草・野菊・唐綿

火入

大樋香炉袖寸胴

喜仙造

風炉

唐銅面取

芳山造

汲出皿

伊万里寄猪口

森八製

風炉

杉木地銀張腰

円意

御菓子

一閑棧高

表朔造

水指

高取

味楽造

濃茶席

鵬雲斎家元筆

歩々是道場

茶杓

小堀定泰作

銘珀清

花

秋の麒麟草・磯菊

河原撫子

茶盤

萩

新兵衛造

花入

時代手付籠

法隆寺天平古材

蓋置

絵唐津写片口

蘆舟造

香合

法隆寺天平古材

杏仙造

建水

唐銅銀杏

鶴峯造

釜

大黒庵尾垂釜

杏仙造

薄茶

春慶曲

鶴峯造

風炉

鉄欠

〃

干菓子

小芋・芋の葉

若林屋製

水指

織部

〃

器

一閑福俵

表朔造

茶入

伊部肩衝

道明造

火入

呉須赤絵菊竹文

全斎造

茶杓

朝倉間道

道明造

煙管

玄々斎好

筋

茶盤

鵬雲斎家元作

銘古今ノ友

火入

呉須赤絵菊竹文

全斎造

替

高麗

吉向松月造

火入

玄々斎好

筋

茶盤

黒楽

吉向松月造

火入

玄々斎好

筋

出雲内刷毛目

半枯竹

南蛮ハシネラ

葉室ノ昔

小山園詰

克臣造

庄造作

芳山造

味楽造

雅峯造

銘珀清

新兵衛造

蘆舟造

祥豊造

鶴峯造

若林屋製

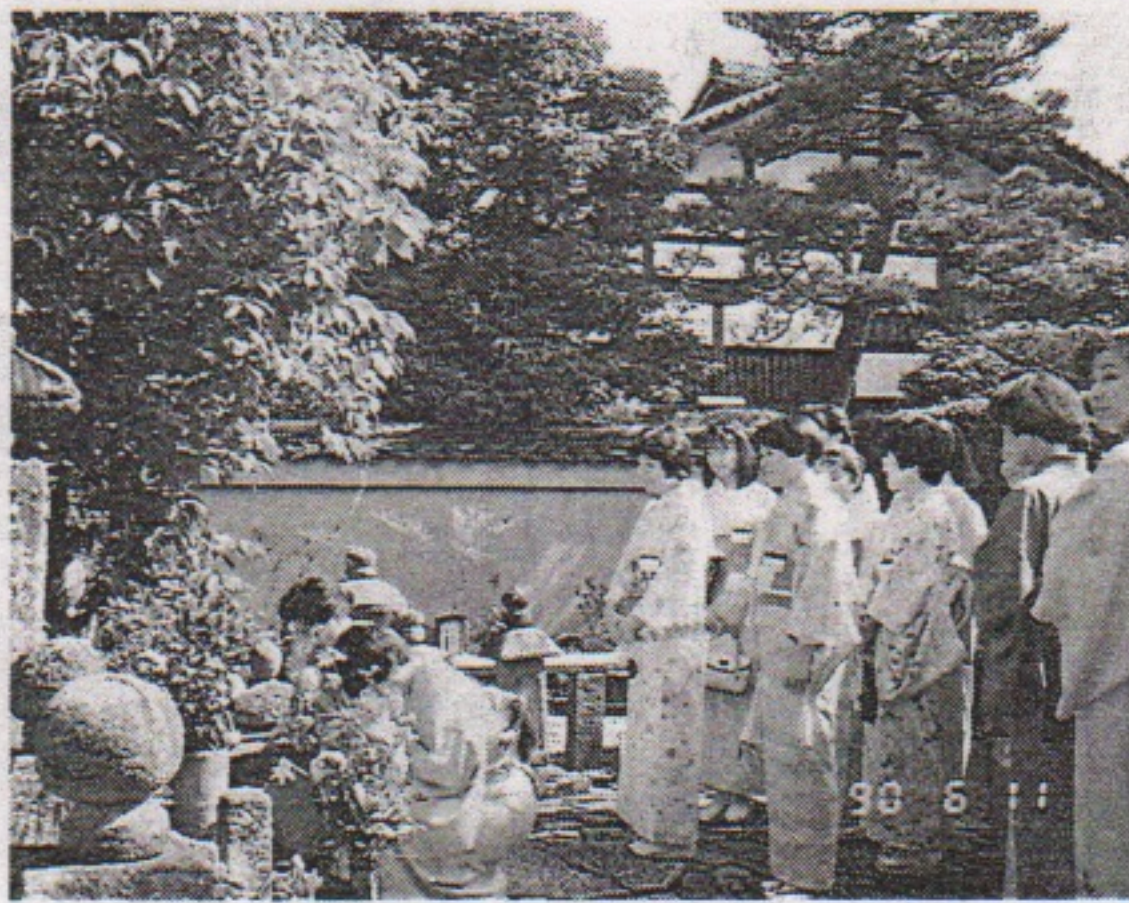
表朔造

全斎造

筋

浄益造

万象造



ています。

御世話下さいました中川部長はじめ青年部幹事の皆様、本当にありがとうございました。

北陸・信越ブロック

研修会に参加して

辻中 青山 律子

梅雨晴れの六月二十三日、二十四日の両日新潟県両津市（佐渡）の吉田屋ホテルに於いて、淡交会青年部北陸・信越ブロック研修会が、佐渡支部青年部の担当で開催されました。富山支部は中川部長始め十三名がJRやジェットフォイルに乗り継ぎ佐渡入り。私もその中に加わらせていただき、たくさんの人との出逢いやふれあいもて、又、多くのことを

学べて本当に参加してよかったと感謝致しております。

今回の二十三回研修会は、今までの分科会形式ではなくパネルディスカッションでした。初めての試みで『青年部の活性化と青年茶人の社会的責任』という大きなテーマを掲げてありました。ディスカッションに入る前に、今井秀昭ブロック長（富山支部）の基調講演があり、深い感銘を受けました。その内容は、お茶は、茶芸ではなく茶道である。人間同士の「出逢い」を生む為の修行の場であり、お茶の稽古を通して、和・敬・清・寂というお茶の心を体得し、体現し、日常生活の中にその心を生かして良識ある人間にならなければならぬ。また、良識あるはずの人が大寄せの茶会になるとなぜか良識が欠けてしまうとの厳しいお言葉もありました。青年部の活性化を計るには、行事を為し遂げることが大切。今までのマンネリ化をただ単に消化するのみでなく、リーダーが自分の意見を強制するのではなく、一人二人の意見でも会の為に良いと思われるものは聞き入れ、会を司る幹事の皆が一つになって、お茶に情熱をかけ成功させることが活性化につながるのではないかと、熱情あふれる講演をなさいました。パネラーの鈴木中越支部青年部部長は、会員を増やすには：今の時代楽しいことがいくらでもある。その中をグローバルにとらえて、お茶の中の楽しみにはどういふものがあるのか、形で捉えるのか、中身で捉えるのか、例えば小寄せ

の茶会等で見つけるのかと、投げかけられました。この他パネラーによるいろいろな意見が交わされ、又、那須総本部会員部部長や実村青年部課長のお話もあり、有意義な実り多い研修会でした。

呈茶のお席で今井宗庵佐渡支部長様とご一緒になったおりに、「佐渡には何にもないがこの豊かな土壌と天の恵みによる素晴らしい景色が何よりの御馳走です。たつぷりと味わって下さい」と言葉をかけられた通り、佐渡の島は何処も美しかった。来年は中越支部（長岡）で逢いましょうと誓いあい、帰路に着きました。人々は出逢いの喜びを求めて生き続けるのではないかと感じております。部長始め皆様、本当にありがとうございました。



美術表装一式

太田好成堂

富山市越前町4-3 ☎ 23-0084

政府登録国際観光旅館



海老亭

富山市桜木町 ☎ 32-3176 (代)

滝の流れる活魚割烹

いさい亭

富山市桜木町 ☎ 32-3181 (代)